

□■受験対策ミニ講座 13号 2022□■（養成所ニュースプラス 18号）

12月に入りました。皆さん、模擬試験は受けましたか。10～11月に行われた日本ソーシャルワーク教育学校連盟の模擬試験では「福祉行財政と福祉計画」に苦戦した方が多かったようです。

苦手科目については満遍なくというよりも、頻出事項に絞り込んで理解していくと、限りある時間を有効に使えると思います。また、得意科目については、更に上乘せができるようにアウトプットを続けていきましょう。

模擬試験を受ける機会がなかった方へ。今度のお休みに、まだやっていない過去問題を実際の試験と同様の時間設定で取り組んでみませんか。当養成所からは、第33回、第34回の過去問題を送っています。試験センターのホームページには、第32回から3年間分が掲載されています。解説はなく解答だけになりますが、「今」やって、この1か月の対策を考えていきましょう。

さて、今回は「社会調査の基礎」からです。いつものように選ばなかった選択肢のどこを直せば適切になるかわせて考えてみましょう。

■Plus Quiz・・・・・・・・

【第29回問題 86】量的調査における標本抽出に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 単純無作為抽出法は、母集団の規模にかかわらず作業時間が節約できる効率的な抽出法である。
2. 系統抽出法では、抽出台帳に何らかの規則性がある場合、標本に偏りが生じる危険がある。
3. 標本抽出では、男女別や年齢別の割合など、あらかじめ分かっている母集団の特性を利用してはならない。
4. 用いる尺度の問題から測定上の誤差が生じることを標本誤差という。
5. 機縁法は確率標本抽出の一種である。

正答と解説は最後に記載してあります。

■Yoseijo Info・・・・・・・・

・(33期生) 修了に関する書類は、10月31日(月)に発送しています。必ず確認し、もし書類の不足等がありましたらご連絡ください。また、書類が届かない場合にはご連絡ください。

住所変更後、変更届を提出していない場合はご提出ください。

・(34期生) 教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)の支給希望の方へ

11月1日(火)に支給申請書類一式を発送しています。届きましたら内容を確認し、ご自身でハローワークに申請してください。印字内容が間違っている、ハローワークで受理されない等ありましたら早急にご連絡ください。

本養成所からの申請書類発行のため、「受給資格者証と公的身分証明書のコピーの提出」及び「レポートの提出」「スクーリングへの出席」「授業料の納入」が必須となります。

・受講の手引の表紙裏(表紙の次のページ)に“レポート作成・提出チェックリスト”があります。

レポートの作成・提出の前に必ず確認してください。

■Test Info・・・・・・・・

国家試験に関する情報をお届けします

・第35回国家試験は、令和5年2月5日(日)です。

試験概要はこちら→<http://www.sssc.or.jp/shakai/gaiyou.html>

・本養成所主催、「受験対策講座」はwebにて開催中です。

第33・34期生の皆様にご案内を郵送しましたので、内容をご確認の上、ぜひ受講してください。現在は、受験対策ガイダンス動画及び全科目対応のオンデマンド動画が視聴可能です。

受験対策講座ページへのアクセスはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=5529

■Plus Info・・・・・・・・

その他の情報をお届けします

・日本知的障害者福祉協会では様々な情報を発信しております。

詳しくはこちら→<http://www.aigo.or.jp/>

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

【Plus Quiz 正答と解説】

社会調査は、調査を実施する立場でも調査結果を読み取る立場でも、皆さんにとって重要な科目になります。用語を丸暗記するよりも、身近な調査から理解していく方が得策かもしれません。

例えば、「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」では、第31回から4年続けて平成28年実施の「生活のしづらさなどに関する調査（全国在宅障害児・者等実態調査）」が出題されています。この調査の調査対象地区は、国勢調査の調査地区から無作為抽出しています。また、調査方法は、対象地区の世帯を調査員が訪問し、調査対象者に調査票を手渡すという「自計郵送方式」で行われます。

社会調査では、量的調査と質的調査が多く出題されています。量的調査の出題基準の中項目からは、「全数調査と標本調査」「横断調査と縦断調査」「自計式と他計式」「質問紙の作成方法と留意点」「調査の集計と分析」が、質的調査の中項目からは、「データの整理と分析」がこの5年間でそれぞれ3回ずつ出題されています。

1. ×単純無作為抽出法は、精度は高いですが、母集団の規模が大きくなるほど、母集団のリスト作成や抽出に時間がかかるという短所もあります。
2. ○系統抽出法は、「無作為（確率）抽出法」のひとつで、等間隔抽出法ともいい、手間はかかりませんが、母集団の番号の割り当てに規則性がある場合には、データの偏りが生じやすいという短所があります。
3. ×母集団の特性を利用した標本抽出は行われず。
4. ×標本誤差とは、標本抽出時に偏った対象が選ばれることで生じる標本統計量と母集団統計量の差を指します。標本抽出が正しければ、標本数が多いほど標準誤差は小さくなります。また、標本抽出によらない、虚偽の回答や未回答、集計ミスで生じる誤差を「非標本誤差」といいます。
5. ×機縁法は「有意（非確率）標本抽出法」であり、知人などの協力者を標本とする方法です。少数の知人などから始めて雪だるま式に協力者を増やしていく方法を「スノーボール法」といいます。「有意（非確率）標本抽出法」は、リストが揃わなかったり数が少ない場合でも容易に抽出できる長所があり、予備調査などに使われます。しかしながら、結果について単純な一般化はできません。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus